

# 委員会だより

<12月1日(日) 10名出席>

【1】財務報告：11月度決算報告(甲斐さん)一委員会了承。

・一般会計：10月度収支 = +¥35,272

次月繰越金 = ¥935,110

・月定献金年間予算¥4,300,000に対して、12月に本年度分完納して頂ければ、¥4,200,000台は確保出来る見込み。

・建設会計：11月に、網戸修理で合計¥163,300の支出あり。

【2】お知らせコーナー：

(1)第6回「聖歌の集い」準備委員会が11/3に山手教会で開催され、石井さんが出席。

・準備、連絡等悪く、12/1に再度打合せを行う。

・次回の「聖歌集い」は二俣川教会で開催することになっているが、同教会の希望として、4/27に開催される見込み(予備日5/25)。

(2)第5回「横浜教区福祉委員会セミナー」が横浜カトリックセンターで11/16に開催され、清水さんが出席。テーマは「聴覚障害」で、手話によるミサも挙行された。

(3)焼却炉を、お聖堂裏に移設した。防火責任者は、婦人会 位田さん、中谷さん。

(4)立場地区センター開館十周年記念式典(12/14)の招待状が中和田教会にも来た。清水さんが出席される予定。(祝金は¥5,000出す)

(5)お聖堂のパイプ椅子の錆防止対策が、11/17に壮年会有志のご協力で完了した。ご苦労様でした。

(6)中田地区中心で行われた住所表示変更：変更届用紙を、教会事務室に用意してありますので、まだ届けていない方は提出願います。

(7)お聖堂の事務室、応接室等の網戸の修理を完了して、支払いも完了した(上述)。

【3】お話し合いコーナー：

(1)バザー収支報告：

・収入： ¥366,852

・支出： ¥43,749

・バザー収入： ¥323,103

・その他収支計： ¥-2,000

★収入： ¥321,103

・バザー収入後の「信徒会預金残高」は¥688,755となった。

・従来、慰労金を壮年会、婦人会に出しているが、青年会にも出したらとの提案が婦人会有志の方よりあった。青少年対策会に絡めて小野寺先生に運用をおまかせした。

(2)クリスマス・パーティ(12/24 8:00pmのごミサ後)の対応、段取り(婦人会検討結果)：

・サンドウィッチ、お寿司、から揚げ、インスタントスープを用意し、飲み物は壮年会が準備。

・会場はお聖堂

・子供用ケーキは、別途壮年会長がアレンジする。

(3)お聖堂の屋根葺き替えの件：

・別途検討委員会をつくって検討を進める。

# 壮年会だより

<12月15日(日)>

1. 委員会報告
2. 来期役員について  
選定については、現役員に一任頂くこととした。
3. クリスマスの子供用ケーキを50個手配する。
4. 定例会後、クリスマスの飾り付けを行った。

# 婦人会だより

<12月15日(日) 35名出席>

- > 委員会報告
- > バザー残品売り上げが90000円程ありました。その内から50000円寄付をしました。また例会で必要な備品が古くなりましたので、40000円で調達します。(ポット、やかん、キュウス、他)
- > 斉脇久子様が二俣川教会に転出されます。(来年度より)
- > 教会の屋根の修理のため準備委員(仮称)として婦人会より位田さん、七浦さんをお願い致しました。
- > 平成9年度の役員が決まりました。

会長	セシリア	鈴木矩子	C地区
副会長	セシリア	青柳恵代	C地区
書記	マリアベルナデッタ	花坂昌子	B地区
会計	マリア	荒木捷子	D地区
特別会計	エリザベト	内藤和子	D地区
典礼	アナスタジア	松尾秀子	A地区
典礼	メルチルデス	江尻迪子	A地区

よろしく願います。

- > 来年度成人式を迎える方、お名前を記入下さい。
- > 来年度聖歌の集いは4月27日(日)二俣川教会で行われます。

次回例会 1月19日(日) 次回当番はC地区です。

# お知らせ

> 教会補修工事臨時委員会発足について

教会の屋根の予想以上に老朽化が進んでいることが判明しました。この為補修工事を急ぐ必要が出てきましたので、掲記臨時委員会を発足し、対策案を練ることとなりました。委員は、委員会より清水(座長)、花坂、甲斐、壮年会より石井、橋、婦人会より位田、七浦、OBとして東原の各氏です。

# 今月の予定

委員会	1月 5日
成人の日	1月15日
新年会	1月19日
信徒総会	1月26日
サロン	1月12日
レジオ	1月10,17,24日



第221回

カトリック中和田教会

広報委員会発行

泉区中田北 1丁目 9-1

Tel. (045) 803-6141

1997年 1月5日



# 模索の補冊 ⑤

山崎 正俊

◎ このメモは、これで終りにするつもりでしたが、急に思いついた大切なことがあります。それは、九月二十二日の日曜日のこと。——その日には、台風の大荒れになりそうな予報が出されていました。こちらの教会でのミサの参加者は、いつもの半数ぐらいでも、

庭木はすべてその前日に、大々的な奉仕によって、枝払いがおわっており、隣家への迷惑はなかったようで、有難くも、聖堂の北側のサッシのすきまから吹き込んだ雨は、そのあたりを濡めらせてただけに終わって来ていましたが、くやしいことは、あの身体障害を持つ人たちに、自信をもってタクマシタ生きる気力をおこさせようと、社会的差別の矢おもてに立ちつづけている人に、はじめて会える喜びを取り上げられたうえ、「天は我に味方せず」のナゲキを、また見せつけられたことです。——なんて、たびたび、こうなるの。

◎ そのはじめの関りは、すこし早目の初赴任の小教区に着いて、前任者がブラジルへ去った空き部屋での、それまでに経験しなかった毎日をぶつかるといふ、苦悩の真最中に、ガリ版刷りの小冊子を受けとられたことによるのですが、それ以来のことは、この会の同人を通じての関りの深まりによっており、その頃に出はじめた社会党の週刊誌に紹介されているのを見た、奇妙な友人ということから、ついに、その会の創立四十年感謝としての御ミサがささげられる、東京大司教座聖堂での集いに、割り込み出席することを、進んで約束するまでになったのですよ。

——神父は何人ぐらい、やって来ることになっていきますか。いまは。——え、たったの二三人ですか(すこしぐらい疲れすぎることになってくまわぬ。この人にはもっとまえから会っていなければならなかった)。——二時までに行けば、よいのでしたね。(キリストへの信仰によれば、『人間、みな仲間』のはずではありませんか。)——教会のなかでは、いまに始まったことではなく、現世における弱い立場の人への差別感情など、それ以前から根強く残され、決して改められることはなく、その気配さえないようなのは、どうしてですか、なんともわかりにくいこと。だいたい、何故そのようなになっている奴なんか産みつづけさせたり、「ヒトリ息子」まで犠牲にして平気でおられるように見える。それで生活用水をふやさせる台風をよこして、有難がらせるとは、ちょっと、ひどいではありませんかと、食ってかからせるような単純で、軽薄で、利己的な神父を風上に置くなぞというような奴(とまでは、口にしなかったが)——このとき、はじめて、この人は声をあげて笑ってくれた。実にわかり易い反応だった。神様よう。有難う。

◎ どうもすみませぬ。話題を始めるものに戻して、結びにします。

——あの司教様は、生命のちぢむような思いをなさったに違いありません。それなのに、すべてを良しと御覧になって、来年を期してお帰りになつたと思いたい。いくらかの手抜きは当たり前なこと、それを「マル」くおさめるのは企画役のウズ。その場をなんとか取り仕切れるなら、今後のために、その記録と反省をまとめて、アレレのレ。「お父さんの、上方風軽半身」(1~3) (次号掲載)

(一九九六年一〇月)



# クリスマスの思い出によせて

ペトロ神父

クリスマスは、子供の日のようであり、家庭の日のようでもある。特に、イブは家庭で過ごすことが多いが、だれより喜ぶのは子供だろう。父や母といっしょにいられるのは、子供にとって一番安心で、嬉しいことだろう。しかし、クリスマスは子供の日や家庭の日というばかりでなく、それはまずキリストの生まれた記念日であり、またキリスト、マリア、ヨセフという小さな核家族の誕生日でもある。

私も小さいころ、いつも家庭でクリスマスを過ごしたが、イブよりも当日の方がにぎやかだった。イブは、サンタ・クロースがプレゼントを持って来る晩だから、子どもたちが早く寝ることは大事なツトメだったらしい。

ところが、クリスマスの日は、感動の一日だった。目が覚めたら、すぐにプレゼントを見た。前々から期待していたものだから、これを見るだけでも嬉しかった。午前中、教会に行ったが、あまり落ち着かなかったと思う。説教も、馬耳東風のような感じ。やはり、新しいおもちゃの方が魅力があって、心奪われてしまっていた。家族そろって食事することは、その日のハイライトの一つだった。

夕方になると、みなツリーのところに集まり、「きよしこの夜」などを歌って、改めてクリスマスの喜びを味わった。そのうちに、いつの間にか私たち子供は、ツリーの元に置かれていた小さな馬小屋の前で腹ばいになって、いろいろ話し合っていた。「あの馬は強そう。羊はかわいいネ。あれはヨセフ様、これマリア様。赤ちゃんは小さいね」などと。子供っぽい話、単純な体験に過ぎなかったが、そこで味わった喜びや安らぎは、特別なもののように思えた。きわめて心にしみ通るような温かいものだった。

あれから、もう四、五十年という長い年月がアツという間に過ぎさり、そのぐらいのクリスマスも過ぎてしまった。時代が変わり、クリスマス・ムードも変わってきた。にぎやかになったというよりも、派手なところさえ多くなって、商業化されてきた。それはやむを得ないことだろうが、しかし、それだけではクリスマスの本当のよさは分からない。さて、今年も、またクリスマスが巡ってくる。師走の慌ただしい時だが、忙しい毎日の合間に、ちょっとだけでも心を静かにして馬小屋に目を向けたい。きっと一般に見られないものをそこで見つけられるだろう。

もし、家で小さな馬小屋を飾れば、なおよかろう。その一つひとつの人形を通して、その一人ひとりの人生は参考になるだろう。三人の賢人や羊飼いたち、それにマリアとその夫ヨセフなど、みな何らかのメッセージを伝えている。そこで家族そろって「きよしこの夜」を歌えば、なお豊かにクリスマスを味わえるだろう。

(祈りの園社「出会いのクリスマス」より掲載させていただきました。)



## ミサ 当番表 (97年1月、2月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
1/5	主の公現	上野	森田	2/2	主の奉獻	井上	森田
1/12	主の洗礼	青年会	大宮	2/9	年間第五主日	青年会	大宮
1/19	年間第二主日	婦人会C地区	岩淵	2/16	四旬節第一主日	婦人会D地区	岩淵
1/26	年間第三主日	石井	石川	2/23	四旬節第二主日	橋	石川

※当番の方は10分前には集合して下さい。

※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: TEL 802-6258)

## 年頭にあたり

教会委員長 清水 聖

明けましておめでとうございます。

最近の中和田教会のうれしい変化を、皆さんも

お気づきでしょう。

①お庭が美しくなりました。

②ごミサに聖歌隊の活躍が目立っています。

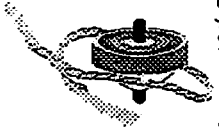
③幼児室が満員の盛況です。

(若いお母さんが幼児連れごミサを受けています。)

私たち小教区でも、宣教、家族、環境、福祉、老人、医療、青少年、建物の補修工事等諸問題を抱えています。皆さんもご存じのように、昨年十一月には、一九九七年度横浜教区活動計画が発表になりました。大聖年(二〇〇〇年)を迎えるべく時はどんどん進んでいます。

今まで村という観でありましたが、高速鉄道一号線の工事が進み立場駅を中心に街が様変わりしつつあります。地域に根ざした、中和田教会の発展を目指しましょう。ちなみに昨年も一昨年も、泉区社会福祉協議会にバザー収益の一部を寄付させて頂いてます。山崎神父様のご指導のもと、各委員、壮年会、婦人会、青少年会、諸先輩諸氏のお励まし、ご協力を感謝しています。皆さん健康に留意され、明るく元氣よく乗り切ってください。

平成九年元旦



## 公 示

カトリック中和田教会運営基準により信徒総会の開催をお知らせ致します。

日時 一九九七年一月二六日 九時ミサ後

場所 ご聖堂

一九九七年一月五日

教会委員長

## ご挨拶

前婦人会長 巢田 初恵

思いもかけず、婦人会長などという大役を仰せつかり、ウソ十年間主婦業のみで過ごして来た私にとってこの一年はかなりのカルチャーショックの日々でありました。

振り返りまして、婦人会の活動が無事にやり終えましたのは、全て私以外の役員の方達のお力によるもので、私はただ、上に乗せて頂いただけです。依ってこの場をお借り致します。役員の方々、御協力いただいた婦人会の皆様、「有り難う」と言わせていただきます。

十二月二十六日